

教科書展示会での出会いをきっかけに、私達、新日本婦人の会西宮支部では、2016年3月から、「目からウロコの歴史教科書カフェ」を始めた。月1回、お茶とお菓子が出るリラックスした雰囲気の中で、学び舎の『ともに学ぶ人間の歴史』を使って、他社の教科書と比べ読みをしながら、近・現代史の学び直しをしている。

西宮の多くの市民や子どもたちに、この教科書の存在を知ってほしいとねがい、会員を中心に、現場の先生達と小・中・高・大学・市民向けに、毎回1000枚ほどチラシを配り参加を呼びかけている。

2020年3月現在で、31回になった。9人で始めたが、常時、参加は二ケタ以上で、最高は29人である。案内チラシの裏に、前回の例会の様子を載せて流れをつかんでもらい、次回に参加しやすいようにしている。

一女性団体の主催ではあるが、男女比は半々である。教育関係と、そうでない人の比率も半々である。ゲスト・ティーチャーの人に来てもらう場合もあるが、講師の話を聞くという形ではなく、話の中に適時、参加してもらうという形にしている。もちろん、始めは、チューターが他社の教科書と比較し、論点を整理したプリントを配り、皆から感想・質問を聞いた後であるが。

市民の中から「歴史の学び直し」が始まった！

毎회가 教科書展示会での出会いをきっかけに カフェは始まった “目からウロコ”で 面白い教科書！

●西宮・目からウロコの歴史教科書カフェ(兵庫県) 小川 碧



阪神間の優位性を生かして 一台湾・中国・韓国の方から、 話を聞く

日清戦争の単元で、台湾の方を、日露戦争の単元で、中国の方を、韓国併合の単元で、韓国の方に来ていただいたら、違った観点からの意見が聞ける。

参加している皆さんの感想

- 代表的なものを挙ると ---
- 〈分かりやすく面白い〉
 - ・写真や資料が多く、カラフルで分かりやすい。
 - 〈歴史を動かすのは民衆だという視点がある〉
 - ・私が、かつて学んだのは「国家権力から見た歴史」みたいだ。
 - 〈日本の戦争についてもきちんと教えている〉
 - ・台湾は日本初の植民地。でもすんなり併合されたのではなく、反対した多くの犠牲者があったとは。

特に宝塚の韓国居留民団の方に来ていただいた時には、在日一世の方が日本に渡って来てからの、差別されながらの困難に満ちた人生の聞きとりやら、当時の日本の学校での差別的な教育の実態が出された。が、朝鮮に友好的な文化人が居た事も知り、「生きた歴史」を学べる例会となった。

〈西宮・兵庫など地元のことがよく分かる〉

・幕末の打ちこわしは、西宮の女性が先頭を切ったとは初めて知った。

〈「学び舎」と他社版の比較について〉

・国どうしが仲良く対等につき合えるようになるには、歴史を正しく知ることが大事なんだと思う。

学すますおもしろい、

目からウロコの歴史教科書カフェ

・子どもが「社会科ざらい」でこまっている親御さん、本人さん、もちろん好きな方も！
・学校で歴史を教えている先生方
・先の戦争を体験された方
・日本の歴史と教育に興味・関心のある方

会員だけでなく
どなたでも参加できます。

歴史って、ホントはこんなに面白い！

【第17回目】(毎月第一土曜日) 警報が出た時は中止します。

日時：10月6日(土)
午後2時～4時

場所：フシラ西宮 4F(403)学習室

参加費：1回300円 小中高大学生は無料です。

やり方：「学び舎」主に道「学び舎」道「学び舎」道

今回のテーマは
ロシア革命と平和
第一次世界大戦が終わって

※労働者階級の政府

主催
新日本婦人の会西宮支
副担い手：安井芳子、渡辺ゆき子、上田舞、小川朋

「目からウロコの歴史教科書カフェ」のチラシ

カフェの今後の課題

- 中学生自身・中学生の保護者にも広めたい。
- 中学生なら、どこから興味を持つかと考えたい。

資料①

先回のテーマ——明治の教育と文化の近代化と軍国化——について、
〈学び舎版〉を元にして、いろいろ話し合いました。

①歌を通して教える → 歌を「集団」とまとめる

① 鉄道唱歌～地理の学習として

※ 産業の発展にともなって、人や物の行き来が盛んになっていった。→ 軍需物資や兵士も大量に運ぶ必要があった。

② 国語が誕生する

植口一葉の「たけくらべ」を以て、話し言葉と書き言葉の一致のし、文語体 → 口語体。

地域・身分・職業による言葉のちがひ ↓ 東京の山の方言集。統一して、国民に統一感を持たせた(学校・軍隊の中で) 国定教科書(学22巻)

③ 学校に通う子どもたち

・歴史 → 天照大神の神話から、神武天皇が初代の天皇と教えた。

・修身 → 「教育勅諭」に従って、一旦徳意深い義勇公(孝治)の御教諭は、戦争と兵士であった。

(11)